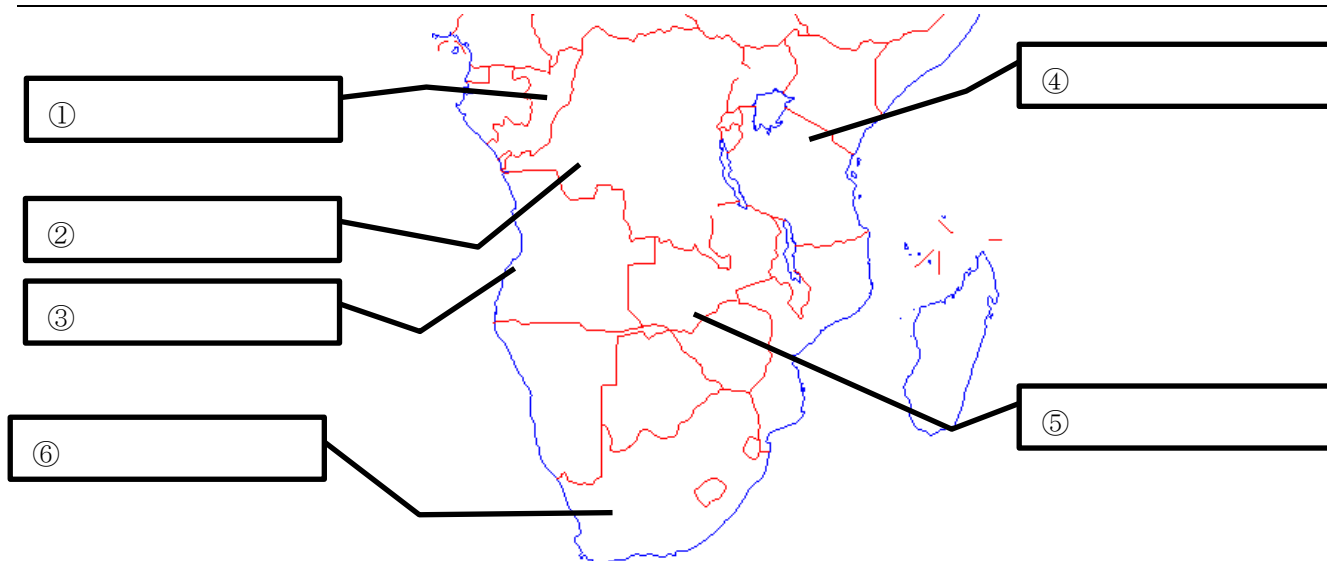


地誌 第19回「アフリカ地誌⑤ 中南アフリカ情勢」

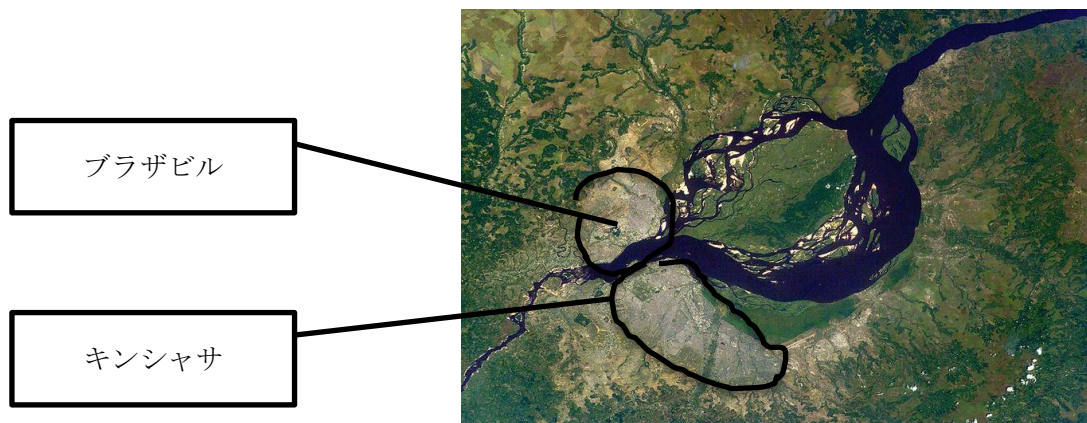
○今回のポイント

中南アフリカ情勢



(1)コンゴ民主共和国 (旧ザイール・民族紛争を経てコンゴ民主共和国になる。西隣は旧仏領コンゴ共和国)

a.首都：[⑦]…旧ベルギー領。コンゴ川対岸のコンゴ共和国の双子都市[⑧]



⇒[⑨]…コンゴの首都キンシャサは、マレボ湖（スタンリープール）と呼ばれるコンゴ川の円形の部分に面している。マレボ湖より下流はリビングストーン滝と呼ばれる急流部が 350km 下流のマタディまで続いており、船舶の航行ができない。一方、キンシャサより上流は高原となっており、緩やかな流れがかなり上流まで続いているため、大型船の通年航行が可能である。そのため、コンゴ盆地各地からの物資を集散し、鉄道で海まで運ぶため、マタディ - キンシャサ鉄道が建設された。

b.[⑩]：コンゴ民主共和国の南部からザンビアの北部にかけて分布する銅鉱床地帯。

○[⑪]…アンゴラの大西洋岸にある港町ロビトとコンゴ民主共和国南部を結ぶ鉄道。カッパーベルトと海を結び、ザンビアやコンゴ民主共和国の重要な輸出経路となっていたが、アンゴラ内戦により破壊され、現在中国が復旧中である。タンザン鉄道と連絡し、アフリカの大陸横断鉄道となっている。

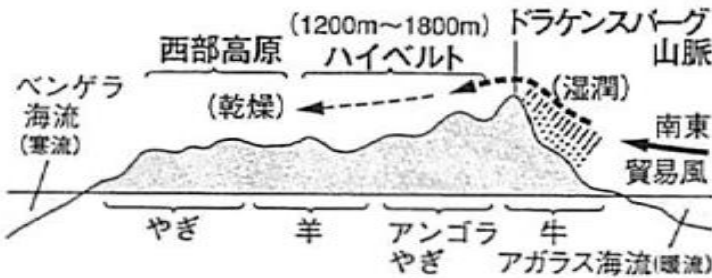
○[⑫]…カッパーベルトの銅をアフリカ東岸から輸出することを目的に建設された鉄道。タンザニアのダルエスサラームとザンビアのカピリムポシを結ぶ。中国の援助により 1975 年に完成。

(2)南アフリカ共和国



南アは、三権分立の機能が各都市に分配して配置されている。首都プレトリアは行政府、ケープタウンには立法府、ブルームフォンティンには司法府が置かれている。

a.位置と自然



- アフリカ大陸南端。内陸部には 1000m をこえる高原が広がり温和。
- 1200m以上の高原は[13]とよばれ、ステップの草原となっている。
- 気候
 - ・南西部…[14](地中海性気候)
 - ・南東部…[15](西岸海洋性気候)

b.歴史と社会

○ポルトガルが発見⇒蘭領⇒英領⇒アパルトヘイトを批判され英連邦から離脱して共和国。
 ・1488年ポルトガルのバルトロメウ・ディアスにより南アの[16]が発見され、1498年ヴァスコ・ダ・ガマが欧印航路を開発して以降、南アはヨーロッパとアジアを結ぶ要衝となった。だが、補給港が無く、交通の障壁となっていた。そこでオランダが補給港として[17]を建設し、入植をし始めた。19世紀になるとインドの支配権を握った[18]がケープタウンをオランダから奪って英領とし、イギリス系白人の入植が始まった。

○[19]
 ・少数派である白人の特権を維持するための政策。現地の[20](オランダ系白人移民の言語)で「隔離」を意味する。住民を出生時の肌の色などで、4人種(黒人・白人・混血・インド系)に分類し、生活のあらゆる場面で区別した。ちなみに日本人は「名誉白人」として扱われ、アパルトヘイトをする南アと積極的に貿易を繰り返したので、国連で名指しで批判された。

c.資源と産業

- i.農牧業…西岸部では[21]、ハイベルトでは小麦・コーン・牛などの[22]、中西部は[23]。
- ii.鉱業…[24]では、金・プラチナ・銀など。キンバリーや首都プレトリア付近では[25]。[26]の石炭、他にも鉄鉱石、ウラン、プラチナ、マンガンなどのレアメタル。
- iii.工業…各種の重工業が発達。日本をはじめ、ヨーロッパ諸国やアメリカなど先進国との結びつきが強い。[27]はアフリカ最大の貿易港で、日本の遠洋漁船の基地としても知られている。